

令和7年(2025年)6月19日
山口県病虫害防除所

トマトのトマトキバガの発生状況と防除対策

6月に入りフェロモントラップに多数のトマトキバガが誘殺され、さらに冬春トマトで本種による葉の食害が確認されています。今後、トマト等で被害が拡大する恐れがありますので、ほ場をよく確認し、早期発見・早期防除により対策を徹底してください。

1 発生状況

- (1) 県内6カ所（岩国、防府、宇部2、下関、萩）のトラップにおいて、春以降継続的に成虫が誘殺され、防府と萩では6月に大きなピークが確認されている（図1、図2）。
- (2) 令和7年6月上旬に、県内のトマトハウスにおいて本種による被害を確認した。

2 本虫による被害の特徴

トマトでは、葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。食痕はハモグリバエ類の被害のような筋状にはならず塊状となり、虫糞は葉の外側に排出される（写真1）。また、果実に幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じる（写真2）とともに、食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する。

3 本虫の特徴

- (1) 生態
 - ア 1年に複数世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なる。卵から成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期は更に期間が延びる。また、発育下限温度は8℃と推定されている。
 - イ 幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や茎葉の内部及び外部で蛹化する。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。
 - ウ 雌は一生のうちに平均で約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。
 - エ 寄主植物としては、トマト、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物の他、マメ科のインゲンマメが確認されている。
- (2) 形態
 - ア 幼虫は終齢で体長約8mmに達する。体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後方に狭い黒色横帯を有する（写真3）。
 - イ 成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm、前翅は灰褐色で黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である（写真4）。

4 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、防虫ネットに隙間がないかなどをよく確認する。被害が確認された場合、被害葉や被害果は速やかにほ場外に持ち出し埋設する等、適切に処分する。
- (2) 薬剤を散布する際は、表「トマト・ミニトマトのトマトキバガに対する登録農薬」を参考に行う。なお、薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性発達防止のため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- (3) 栽培終了時にはハウスの蒸し込みを実施するなどの対策を行う。

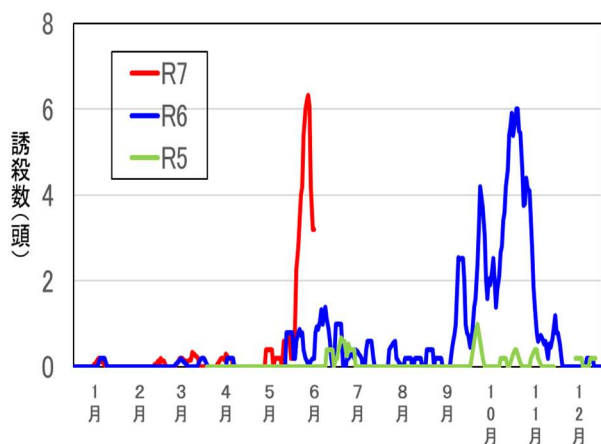


図1 フェロモントラップ[®]の誘殺推移（防府市）

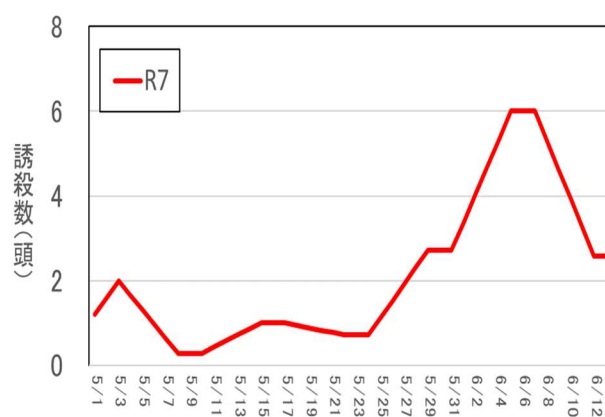


図2 フェロモントラップ[®]の誘殺推移（萩市）

* グラフは移動平均



写真1 幼虫による食害（葉）



写真2 幼虫による食害（果実）



写真3 幼虫（体長8mm程度）



写真4 成虫（体長5mm程度）

表 トマト・ミニトマトのトマトキバガに対する登録農薬

殺虫剤 IRAC コード	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	マルハナバチ への影響日数	ト マ ト	ミ ニ ト マ ト
5	ディアナSC ラディアントSC	2500～5000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	1～3日	○	○
5・(-)	ダブルシューターSE	1000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	—	○	○
6	アグリメック	500～1000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	7～14日	○	×
	アニキ乳剤	1000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	1日	○	○
	アフーム乳剤	2000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	5回以内	2日	○	○
11A	エスマルクDF	1000倍 100～300L/10a	発生初期(但し、 収穫前日まで)	—	1日	○	○
	ゼンターリ顆粒水和剤	2000倍 100～300L/10a	発生初期(但し、 収穫前日まで)	—	1日	○	○
	チューンアップ顆粒水和剤	1000倍 100～300L/10a	発生初期(但し、 収穫前日まで)	—	1日	○	○
13	コテツフロアブル	2000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	9日	○	○
22A	トルネードエースDF ファイントリムDF	2000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	6日	○	×
22B	アクセルフロアブル	1000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	8日	○	○
28	フェニックス顆粒水和剤	2000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	1日	○	○
	プレバソンフロアブル5	2000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	1日	○	○
	ベネビアOD	2000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	1日	○	○
	ヨーバルフロアブル	2500倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	45日	○	○
30	グレースシア乳剤	2000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	1日	○	○
UN	プレオフロアブル	1000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	1日	○	○

マルハナバチへの影響日数はメーカー技術資料、各県の資料等を参考に設定した。